

令和5年度
第1回大野市総合教育会議
会議録

日 時：令和5年12月19日（火）午前9時30分～10時55分

場 所：大野市役所 2階 大会議室

令和5年度 第1回大野市総合教育会議

日時：令和5年12月19日（火）

午前9時30分～

場所：大野市役所 大会議室

1 開会

（大野市民憲章及び大野市教育理念の唱和）

2 市長あいさつ

3 議題

（1）講話 「挑戦 ～両県の違いから見えてきたこと～」

講師 大野市陽明中学校 教諭 海野雅俊 氏

質疑応答

意見交換

（2）「屋内型子どもの遊び場」について

（3）その他

4 閉会

大野市総合教育会議出席者名簿

	役 職	氏 名
1	市長	石 山 志 保
2	教育長	久 保 俊 岳
3	教育委員 (教育長職務代理者)	馬 道 保
4	教育委員	松 谷 由 美
5	教育委員	松 田 輝 治
6	教育委員	羽 生 た ま き

(事務局)

1	行政経営部長	吉 田 克 弥
2	政策推進課長	小 林 勝 信
3	教育委員会事務局長	横 田 晃 弘
4	教育総務課長	指 岡 哲 郎
5	学校教育審議監	山 川 龍 一
6	こども支援課長	山 崎 勝 彦
7	生涯学習・文化財保護課長	佐 々 木 伸 治
8	政策推進課課長補佐	前 田 晃 宏
9	教育総務課課長補佐	森 永 奈 緒 子

<傍聴者>

1人

1 開会

―― < 市民憲章、教育理念唱和 > ――

2 市長あいさつ

本日、令和5年度大野市総合教育会議を開催させていただいたところ、公私ともに大変お忙しい中お集まりいただき、お礼申し上げます。

日頃、中学校で教鞭をとられる先生が講師ということで、特別にお時間を割いていただき、感謝申し上げます。

さて、去年のことを思い返していたが、この同じ場所で陽明中学校の羽生教頭先生から、東京の麴町中学校で1年間教鞭をとられてきた経験を私たちにお伝えいただいた。何々をしてくださいではなく、あなたはどうしたいのかと問い続けるような教育を実践されてきたというお話を思い返していた。

教育委員の皆様には、常日頃から大野市の教育行政がより良くなるように子どもから大人まで、本当に心を配り、ご意見をいただき、現場を見ていただいていることに心から感謝を申し上げたい。

また懸案となっていた大野市小中学校再編計画に関しても、地元の方々や先生方や教育委員会との調整を図りながら、いよいよ令和6年4月から新しい体制の中での二つの中学校がスタートすることになる。準備も余念なく進めていると思うが、新しい教育が前向きな形の中でスタートできることを願っている。

これからも一緒に現場づくりをよろしくお願い申し上げます。

さて本日、茨城県から大野市へ来ていただいている陽明中学校の海野教諭をお招きし、常陸大宮市でのご経験も踏まえられ、大野市の学校教育や教育環境に対して感じておられることなどをお話いただき、その後、意見交換をさせていただきたい。

また、市長部局からは、連携して進めている屋内型子どもの遊び場整備事業について、令和6年度中のオープンを目指して鋭意進めさせていただいているので、政策推進課から進捗状況などをご説明させていただく。

結びにあたり、インフルエンザ等も流行っているということなので、私たち自身も健康に留意をしながら、教育委員の皆様のみまますのご発展をお祈りさせていただきます、私からの挨拶とさせていただきます。

3 議題（進行：総合教育会議設置要綱第4条に基づき市長が務める）

(1) 講話 「挑戦 ～両県の違いから見えてきたこと～」

講師 大野市陽明中学校 教諭 海野雅俊 氏

私は茨城県常陸大宮市立明峰中学校という学校から来て、4月から勤め始めて残り3ヶ月、あっという間だと感じている。大野市に来て、いろいろ感じていることや、うまくいっていることや、大変だと思っていることなど、いろんな話をさせていただければと思う。

さて、講話ということで時間を取っていただいたが、こちらから一方的に話して終わりではなく、挑戦というタイトルにもあるが、対話を通していろいろな話をしながら進めていければと思っている。

題材として、自分が今、大野市ではこれがいいなと思っていること、うまくいっていること、少ししんどいと思うこと、その辺りの話を持ってきた。自分が話している中で、何かリアクションしていただけると嬉しいと思うのでよろしく願います。

はじめに、私は陽明中学校にいたので、大野市というより陽明中学校に限定しての話になることもあるし、大きな括りの話になる時もある。範囲がすごく狭かったり広がったりすると思うし、私個人の主観も入るかもしれないが、その辺りを含みおきいただいて話をしたい。

まず大きな話になるが、大野市に来て一番上手くいっていると思うのは授業である。子どもたちはすごく勉強ができる。特に教科の授業に対して、数学ができるようになりたいとか、何とかこの問題が解けるようになりたいという思いがある子どもたちだと感じている。

縦割りの授業をする中で、数学の先生は自分を含めて4名いるが、もう1人の先生と一緒に県教委主催の研修会の研修を受けてきた。シグソー学習というものだが、その研修を受けてきてすごく面白そうだと思い、私はこれをやってみたくて教材を作ってみた。こんな形でどうかと聞いたら、それはいいね、ちょっとやってみよう、という話になって、そこから4人の先生を巻き込んで、あれこれ話し合いながら教材の準備をした。こんなふうに繋がっていくよねなどと話しながら授業を作っている。そういう教員同士でのやりとりもそうだし、子どもたちの一生懸命やろうという気持ちもそうだし、その辺りの良さが今一番実感できている。

ただ、子どもたちは一生懸命なのだが、普段の生活に少し困っている。決められたことや、言われたことに対してはすごく一生懸命にやっているが、自分で気づいて、取り組んでいくということはすごく苦手な気がする。シグソー学習というのは、ヒントというか何か取っかかりのようなものがあって、それぞれ違う人たちがいろんな方法でやってみて、戻ってきてまたそれを集めてやるという学習法である。他の人の話を聞いて、自分の考えを柔軟に変えたり、新しいものを作っていくことにすごく難しさを感じている。授業では、

思考力とか判断力とかに表れてきて、それを伝えるために何とかしたいという思いをもっている。

私がいた常陸大宮市の中学校は、普段の勉強や授業などにはあまり興味がないという感じだった。でも、友だちを大事にしようとか、困っている人がいたら声をかけてみようとか、掃除を一生懸命やろうとか、何かあったら率先して動こうとか、ありがとうとごめんなさいを言えるようにしようとか、そういうところに力を入れてやってきた。

でもこちらは全く逆で、少し大変だと思っている。授業はすごく一生懸命だが、友だちが休んでいても全然気にしないし、その子が給食当番だとしたら、その子が休んだらどうなるかぐらい分かりそうなのに、全く気にせず、給食のお盆がやってくるのをずっと待っていたりする。

こういうところが今、どうしたらよいかとすごく苦労している。

常陸大宮市では勉強には全然興味がないけれど、日頃の生活ではすごく人との繋がりを大事にしている。大野市はすごく勉強に興味があるけれど、あまり人との繋がりは気にしていない。そういう違いがあると思う。

今のところ大きいのはこの二つである。

常陸大宮市では、最初は距離感が全然うまく取れなくて、入学式の次の日から喧嘩をしているという感じだったが、ちゃんとコミュニケーションがとれるようになるし、学級崩壊しながらも何か土壌はしっかり持っていたような気がする。〇〇ちゃん今日お休みだけどどうしようと聞くと、誰に聞いても自分がやりますとすぐに言ってくれて、ありがとう、はい終わり、という感じ。

今の自分のクラスの子たちは、何か手伝ってと言えなくて、じっと待っているだけという子が多い。担当の子が忘れていても、配膳の準備がされていなくても、ただじっと待っていたり、代わりにやるということが損することだと思っている。そこが一番難しいと感じている。

【松谷委員】

先生のお話を聞いていて、子どもたちのいろんな反応があるとおっしゃっていたが、その反応をもう少し出させようと思った時に、何か声かけをしてあげるといふか、この子だったら一言で次が返ってくるとか、この子は五つ言ってあげると、どんどん心を開いて何か発言してくれるとか、そういうきっかけもあると思う。子どもたちを見ていると、家庭での生活もすごく反映しているのではないかと思う。

先日、吹奏楽部に入っている中学校2年生の次男が、久しぶりの一日練習でお弁当が必要だった。私は作って持たせたのだが、周りの子たちはみんな自分でお弁当を作ってきていたと聞き、ちょっとびっくりした。うちの子は3人目

なので、その流れで作って持たせたが、その子たちの保護者の皆さんとも話をする機会もそれほどないので、周りの子たちがどういう生活をしているかというのも気にしていなかった。それを聞いた時に、もしかして私は今の生活スタイルに遅れているのではないかと焦りを感じた。その話を職場でしてみると、そんなことがあるんだと親世代はびっくりしていたが、子どもたちの間でちょっとしたことでも話題が広がって、子どもたちがその気持ちを共有していくと、もしかしたらお弁当に限らずいろんなことで心を開いて行って、言葉も出てくるのかなと思う。

家庭で起こったことを、学校で話し合いをすることで、話の花が咲いて、次のきっかけにつながるのかもしれない。学校生活の中で気づかない一つのことを、また子どもたち同士で話し合っただけで発展していくと良いと思う。

子どもたちが主体となって、1人の子が次はこうしようと言ったことで、私もそうすると言ってクラス全体が盛り上がっていくようなこと、例えば体育祭などは課題があるので発展しやすいと思うが、先ほどおっしゃっていたように、給食の順番をただ待っている時に、誰か1人が声をかけてあげれば、次にいくのではないか。そういうふうに先生が後押ししてあげるとするのは難しいと思うが、そういうことがある中で、また子どもたちの中で発展していくのではないかと思う。

【講師】

そこにいろんな要素がすごく複雑に絡み合っている。それを後押しされた子が、「なんで私が」と損した気になる子が何人もいる。その気持ちをほぐしていくのに時間がかかっている現状である。

【松谷委員】

私は「大野人」という、今の中学校2年生の子たちが書き上げた雑誌に出させてもらったが、その時に対応している子たちも、なかなか反応が見えなくて、分からないと思う時期があった。あることをきっかけに、それが再起動したということもあるので、やっぱり子どもの気持ちを後押ししていくのは、時間とか言葉のかけ方とかが難しいと思っている。

【講師】

そこが日々格闘しているところである。

【教育長】

今、陽明中学校が特に力を入れているのが、子どもたち主体で学校の生活を

作っていくことをサポートをするような体制だと思う。そういうことを教員集団としてやっている中で、やはり子どもの反応というか、姿勢なども変わりつつあるのではないかと思うが、その辺りはどうか。

【講師】

一番大きく感じるのは行事である。決められた言葉を話すのではなく、思いがのった言葉を話すというか、気持ちを相手に伝えることでお互いの気持ちが上がっていくということを、体育祭の時に強く感じた。合唱の時も、一つの同じ目的があるので、指揮者の子に周りの子たちがみんなついていくのがすごいなと感じた。

【市長】

大人の世界でも、イベントや行事が3年ぶりぐらいにあって、地区ごとの行事でも久しぶりでやり方が分からない。10月ぐらいにやっとコロナも落ち着いてみんな笑顔でいろんなことができるようになった。子どもたちも、大人と同じ感覚を持ちながら学校生活を過ごしているのではないかと思う。

茨城県の学校では、去年は行事などはどのような感じだったか。

【講師】

茨城県は、去年は修学旅行も学校行事もすべてやっていた。

【市長】

福井県では、例えば修学旅行なども県内での移動というように縮小されていた。ただ、中学校時代のフィナーレがなくなるのは寂しいので何とかやらせてあげたいと思っていた。福井県と他県との違いは少しあるようだ。

【講師】

今年は2年生も宿泊研修で石川県に行ってきた。学びを充実させたいと思っていたが、子どもたちは久しぶりに外に出られて解放されていた。制限されていたものが大きかったのだろう。学びを重視したかったが、帰ってきて話を聞くと、ただただ喜びの方が大きかった。

【市長】

コロナ時代に学校生活を過ごしている子どもたちは、友だちの顔もマスクをつけた顔しか覚えていない。願いとしては、体育祭などみんなと力を合わせてやるという経験を一つでも積ませてやりたいと思う。そういう経験の中で、こ

こまでしてあげてもいいのか、とか、これを言ってあげれば助かったんだな、など友だちとのつながりを感じ取ることができるのだと思う。

【松田委員】

今の話の中でいくと、先生が茨城県の学校で見たり経験したりしてきた中で、大野市の子に何が欠けているのかということを知らせていただくと、私たち自身が、小さな形でも少しずつ是正していくとか、意見提言ができるのではないかと思う。先生から、ここは駄目なところだとか、ここは大人たちがもっと押してやれば伸びるのではないかという良いアドバイスがいただけたらと思っている。

【講師】

結局、子どもたちに足りないところは、大人にも足りないところだと思う。それが見方によっては良いところにもなるし、悪いところにもなってしまうのでなかなか答えるのは難しい。

【松田委員】

大野市は結構条件が悪いところだと思っていて、まず交通の便が悪い。そして、何事も選択肢が少ない。例えば、勉強するところもそうだが、スポーツ活動するにも文化活動するにも、そういう足りないところなりに、大人がどういうことをバックアップしてやれるのかを日々考えているので、アドバイスをいただきたい。

【講師】

経験は確かにすごく少ないと感じる。狭い人間関係の中で育っているので、新しい考えが入ってきた時に、すごく抵抗感を持つということを感じる。私が最初にクラスに入ってきた時に、異分子というか、全然価値観も考え方も違う人が急に入ってきたので、結構子どもたちにとって、「何だこの人は」と抵抗感を感じている部分はあったと思う。できることとすれば、やっぱりいろんな経験をする機会が子どもたちにあると良いと思う。結構外に出ている人とか関わっている子は、いろんな考え方を持っているとか、すごく順応が速いなと感じるし、経験があまりない子は、割と順応が遅いというか、他のいろんなものを受け取るのに苦労しているなというのは感じる。

【松田委員】

いろんな経験をさせてやりたいと思うが、なかなか難しいところではある。

大人も一生懸命に、子どもたちが大野市に愛着を持って、大野市で育って頑張ってくれるように、何か良い方法を見つけていきたいと思っているので、またお力を貸していただけたらありがたい。

【馬道委員】

私は去年まで陽明中学校で特別支援という形で、理科の授業を中心にいろんな授業に入っていた。その時に子どもたちを観察していたり、先生方の授業の様子を見せていただいていたので、今年は随分変わったと感じている。

まず一つは、陽明中学校の学校だよりも書いてあったが、家庭学習が少し変わってきたと思う。今まではテキストとかを与えていたのをだんだんやめて、自分で学習を見つけたり、分からない子には良さそうなテキストを紹介したりという方法を取り入れていて、随分変わってきたと感じた。今までのやり方だと、これさえやっておけばいいというやらされ感があったと思うが、今度は自分で決めて学習するというやり方に変わってきているので、先ほど先生がおっしゃったように、自分でこうしたいという生徒が少しずつ出てくるのではないかと思う。

また、先生方の授業の変化も見られる。今年、陽明中学校の学校訪問で見せていただいたが、今まではどちらかという教師主導型で、こういう課題についてやってみようとか、どんどん進めていく授業スタイルがまだ少し残っていたが、タブレットを使ったり、それを使った対話的な学習をしたりするようになってきていた。例えば、社会科でタブレットを使い、何かの事件について有罪か無罪かということのを班で話し合っていた。その情報はタブレットを使って自分で見つけていた。そういう授業を見て、先生方が意識して変えているなと感じた。これからどんどん変わっていくという気がする。

また生徒会の取り組みも、校則の見直しを自分たちで何かやろうと考えている感じも受けたし、校長先生はじめ先生方が一体となって改革しようという雰囲気を感じた。

今は小学校に支援員として入っているが、小学校の子どもたちの様子を見ると、とても素直に教師の言ったことを聞いてくれるので、授業が進めやすいと思う。でも子どもたちは教師の言った通りに動くので、言われたことはできるのだが、自分はこう変えたいとか、こんなふうにしたいと自分から動くことはなかなか難しいと感じている。

ただ小学校でも、体育祭での応援の振りつけなどは、なるべく教師側は声をかけずに子どもたちから上がってくる意見を待っているという形をとって、何とか子どもたちから意見を出させて、子どもたちの進め方でやっていこうとはしている。そういうことがどんどん積み重なって、いろいろな体験を積み重ね

で中学校に行けば、少しずつ変わっていくのかなと感じている。

学習に対しては、小学校では漢字、計算などのドリル的な宿題が主流だが、少しずつ家庭学習も変わってきていて、自分で考えて進んで学習を取り入れている。どこの小学校も少しずつ取り入れていると思う。子どもたちが自分のやりたい学習をノートにしていき、優れたノートを掲示して、こういう学習方法もあるよと参考にさせている。宿題も、ドリル学習だけではなく、自分で考えた宿題も少しずつ取り入れている。

【講師】

確かに大人の変化に対するモチベーションというのはすごく高い気がする。こういうふうにやったらこうなると思うんだよねと投げかけると、やってみようとか、変えてみようとか、上手くいった、いかなかったというサイクルになるが、そういうモチベーションはすごく高いと感じている。

【羽生委員】

私は上庄地区に住んでいるが、上庄は、保育園、幼稚園、小学校、中学校と他のどの地区とも交わずに、同じメンバーが巣立っていくという環境の中にあるので、子どもたちが学校の頃は気心知れた中で育っていて、今おっしゃられた気づきとか思いやりに関しては思い当たることがなかったので、そういうこともあるのかと新しい気持ちで聞かせてもらった。

私も他所から嫁いできたが、大人の方の気質としては、良くも悪くも他の人と横並びにいるというか、突出して何かをしないでいるというのがすごく感じられた。一番に手を挙げて何かをすとかではなくて、様子を見ながらという感じがあったので、そういう土壌も少し関係しているのかと感じている。

市長が言われたように、本当に負の時間だったと思うのはコロナの期間である。授業以外の地区の行事、或いは社会的な参加など、学校行事を通して本来多くの気づきや学びを得るという機会が奪われてしまったということは、今、子どもたちに表れている様子の一端にはあるのかなと思う。

ただ、コロナが明けてから、今年も学校訪問させていただいたが、マスクのない良い表情をたくさん見せていただいたので、私としてはここから、3年かかったことを時間をかけて取り戻していかないといけないと思っている。これは学校だったり、地区の大人だったりの責任だということを、あの笑顔を見るにつけ感じている。

来年の春には再編もあり、新しい学校での友だちの考え方を知ることによって、一歩前に出なかったことが新しい形で動いていってくれたらいいなと今のお話を聞いて思っている。

そして、大野といえば3世代家族が多く、交通の便も悪いので、もしかすると良くも悪くも子どもたちが考える前に手を出してくれる大人がたくさん周りにいる、見守ってくれている大人がたくさんいるということが、時にありがたかったり、その一方、自分でしようということをし少し阻害している部分もあるのかなという自分の反省も含めて聞いていた。

ただ、おじいちゃんおばあちゃんがいて、地区の方に見守られて育っているということは、人としての底力がすごく備わっていると思う。私の子どもはもう社会人になっているが、社会人になった彼らを見てそう思う。それは学生時代には感じなかったことである。

今は点である子どもたちの胸の中の思いというのは、彼らが大人になった時に、大野に生まれて見守られて培われてきたというのは、絶対に底力になって面的に時間をかけて強く繋がっていくという大きな期待がある。

コロナでかかった時間は、学校再編も含めて、私たち大人が温かく時間をかけて見守っていかないといけない時期なのかなと、今のお話を聞いて、責任も含めて感じている。

【講師】

やっぱり学校現場は、地域を知らないと日々の指導がすごく難しいということも改めて感じた。

私は常陸大宮市に8年、9年勤めたので、そこのお家の様子もよく分かるし、どこでどんなことをやっているのかも分かるし、どういうところを大事にしていたかも分かるし、だから子どもたちの良いところもすごく分かっていた。大野市にきてまだ1年目で、全然様子も分からずに、何を大事にしているのかも分からず、そういうところすごく苦労した部分もあって、今日、この会議の中で、大野市はこういうところだよ、こういうところを大事にしているんだよというのが話の中で見えてきたので、こういう機会はすごく大事なんだと改めて感じている。

やっぱり、おじいちゃん、おばあちゃんがいて、お父さん、お母さんがいて、自分がいてという中で育っているのも、大人との信頼関係とか温かさを感じているからこういうリアクションになるんだなという部分がすごく見えてきた。

もちろん良い部分でもあるし悪い部分でもあるが、元からある良さを生かしながら、自分のように外から来た人間が気づいた、じゃあこうしたらもっと良くなるねという意見が出し合えたらすごくいいなと改めて感じた。

外からいろんな方を招くという機会が大野市は多くて、市として一步踏み出しやすいというか、学校もそうなのだが、何かやろうという時に、その変化を全く恐れずにやってみようという気持ちもあるので、元からあるものと、新し

いものとを上手にハイブリッドしながらやっていくことがすごく大事なんだなと改めて自分でも感じた。

【市長】

今日は、本当にいいお話をいただきお礼申し上げます。

大野市は、濃い地域コミュニティの人間関係の中で、純粹に育ってしまいがちなので、福井県教育庁或いは大野市教育委員会としても、先生のような交流をすることによって、より良い教育を目指しているのだと改めて私も感じさせていただいた。

大野市の姉妹都市が茨城県の古河市であり、来年、令和6年が大野市制70周年を迎えるため、古河市から大野市へ市民の方々に来ていただいて交流しようという計画がある。そのニュースが茨城県で流れた時には、大野市のことだと思い出してほしい。今後のご活躍をお祈り申し上げたい。

今一度大きな拍手でもって、先生へのお礼に代えさせていただく。

— < 休憩 > —

(2)「屋内型子どもの遊び場」について

～ 政策推進課より説明 ～

【事務局】

まちなか交流センターについては、来年の4月1日から工事の準備もあり、利用できない。現在利用いただいている団体の皆様には、もうすでに説明会等を開催し、次に活動する場所について、スポーツ推進課等と連携し、準備を進めている。

【松田委員】

少し心配な点は、周辺の駐車場を有料化するという話が出ている。遊び場事業が本格的に供用開始になると、たくさんの方が来てくださると思うが、駐車場のことについて配慮していただきたい。少し大きい子は良いが、乳幼児を連れている人もたくさんいるので、天気の悪い時は歩くのもたいへんだと思う。

【事務局】

保護者の説明会等でも駐車場が心配という話はいただいているので、そういう話も心に留めながら、駐車場についても進めていきたいと考えている。

【松谷委員】

子どもたちが手に触れる遊具とか、小さいものとかを自然素材にしていたかどうかという意見もあるか。今はその自然素材を触って、その中で過ごすというのを親御さんたちはとても良いことだと思っている。壁や壁の一部にそういうものを使う予定があったら教えていただきたい。

【事務局】

大野市を体感できる施設ということで、特に森林が多いので木をなるべく使っていきたいと、遊具計画と、実施設計を進める中で伝えている。

ただ、安全性ということもあるので、すべてを木でつくるということも難しく、折り合いをつけながら自然素材を使っていくようお願いをしている。

(3) その他

【教育長】

一言、市長にお礼を申し上げたい。

日頃は、大野市の学校、そして子育て環境の整備について、絶大なるご理解とご支援をいただいております、教育委員一同、感謝申し上げます。

学校再編が大きく進んでいく中で、一番分かりやすいのは、開成中学校、陽明中学校、下庄小学校の未来志向の学び舎づくりがだんだん形となって見えてきた。いろんな面で、市長にご支援いただいていることに心からお礼を申し上げます。

我々は、魅力ある学校づくり、子育て環境、そして18年間子どもたちの成長を支えていくという視点からもしっかり頑張って参りたいと思っている。今後ともよろしく願います。

4 閉会